



環境保全など多面的な機能を持つ農業用水を、いかに保存、維持していくかについて話した疏水サミット。熊本市民会館

農業用水は 水と緑を守る

熊本市で
疏水サミット

田畑を潤す役割と環境保全など農業用水の持つ多面的な機能を見直す「疏水サミット in 熊本」が2日、熊本市の崇城大市民ホール(市民会館)であった。九州農政局や県土地改良事業団体連合会などでつくる同実行委主催。九州での開催は初めて。

2007年から毎年開いており4回目。全

国の農業、行政関係者ら約1200人が参加した。

林良博東京大大学院教授を進行役に、齋藤晴美・農水省農村振興局次長ら5人のパネル討論では、水田を活用した熊本市の地下水涵

養や、水田と農業用水を魚道でつなぎ生態系の維持に配慮した兵庫県豊岡市の取り組みなどを話した。

討論参加者は農業用水を「文化や歴史と結び付き、水と緑を守る環境施設」との認識で一致。「国民の理解を得て施設の維持を」買

易均衡を保ちつつ国内農業を守る方策の検討が必要」などの意見が出た。(松本敦)